

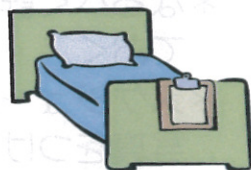
きょうと福祉倶楽部だより

2007年3月



無駄な差額ベッド料を支払っていませんか？

先日、私たちがお手伝いをさせていただいているお年寄りがインフルエンザにかかって入院されました。突然の発熱、さぞ苦しかったことと思います。幸いにも短期間の入院でおうちに帰ることができて、私たちも安心しました。



さて、突然の病状悪化、そして感染の防止の観点から、この方は「個室」の利用を病院から求められました。この方は病院が求めるままに、差額ベッドの支払いを了解してしまいました。

皆さんはこのような場合、差額ベッド料の支払い義務があると思われますか？

実は、上記のような場合は、患者は差額ベッドの支払い義務はないのです。厚生労働省の考え方は、2000年11月10日付け保険発第185号で明確に示されています。

8)特別料金を求めてはならない場合

ア・同意書による同意の確認を行っていない

イ・「治療上の必要」

ウ・「病棟管理の必要性等」

では、特別料金の徴収は行えないとの記載があります。

この方の場合、高熱を出し、入院加療が必要な状況にあった。

さらに感染防止のため、病棟管理上大部屋での入院ができなかったわけですから、本来は差額徴収はできないのです。

にもかかわらず、この病院はこの方に部屋代を請求したのです。

こんな費用請求がまかり通れば、お金のないものは必要な医療も受けられないことになってしまいます。

患者の側も「賢くなって」、誰もが安心してかけられる医療体制を守る必要性を感じた出来事でした。



きょうと福祉倶楽部を利用されている、すてきな姉妹をご紹介します。(1月号では、お姉さんの秀美さんをご紹介しました。)

お二人は筋ジストロフィーという病気のため、日々の生活で車椅子やリフトなどを使い過ごされています。お仕事も、遊びも一生懸命、毎日いきいきと楽しまれているお二人です。

～今日は、妹の命子さんにインタビューしてみました～



長井家のアイドル
“こぶーさん”です

Q. 命子さんの普段の過ごし方を教えてください。

平日は授産所でパソコンを使ってハガキや冊子等、印刷物の版下を作っています。今年で15年目になります！

Q. 命子さんはネイルアートやビーズアクセサリーをととても上手に作ってられますが、始められたきっかけは？

ネイルはテレビで見て可愛いなあとやってみました。

ハートや花のシールを貼って楽しんでいます。ビーズは、友達に本を見せてもらったのがきっかけです。子供の頃から手芸が好きです。同じデザインでもビーズを変えて作ると、色や形が様々なので、違った物に見えるところが面白いです。



Q. お姉さんってどんな方ですか？

“食べることが大好き”“勉強熱心”“絵がうまい”です。入院したとき「早く元気になってね」と絵手紙をくれました。二人だけの姉妹なので仲良くやっていこうと思います。

Q. 命子さんにとっての夢は？一番楽しいことは何ですか？

「日々平凡に生きること」。去年は入院でしんどい思いをしたので、「健康第一」で楽しいことがいっぱい1年にしたいです。

一番楽しいことは、大好きな藤井ツミヤさんのコンサートに行くこと。初めて行ったときはすごく嬉しかったです。

命子さんご自身の手です、あっという間にこんなに綺麗なネイルアートのできあがり！

Q. 車椅子に乗っていて、今までに困ったことがあれば教えてください。

最寄り駅でも、エレベーターの無い駅は利用が出来ません。お店も同じです。雨の日、傘やカッパを使っても濡れてしまうことも困るかな。でも、一番困るのは、藤井ツミヤさんのコンサート中、前の席の人が立つとステージが見えなくなってしまうことです。



Q. こんな物があつたらいいなと思うものは・・・？

音声で操作できる家電やリモコン！

エアコンや照明・TVなどが、声に反応して動いてくれたら便利だともう！

～秀美さん、命子さんご協力ありがとうございました！～

(研修報告)



テーマ: 自閉症を中心に 広汎性発達障がいのある人

講師 木下秀美氏 (カウンセラー・相談室カンナ)
日時 2007年2月10日 13時半～
会場 産業文化会館第3会議室

講師の木下氏は、印刷会社でデザインのお仕事をされていたのですが、ご長男が中三のとき不登校から自殺されたことから、独学で学習を始められました。

その後、放送大学で心理学、発達学、教育システム等を学ばれ、現在、京都ひきこもりと不登校の家族会ノンラベルと相談室カンナで当事者の方の居場所づくり、対話、相談をされています。

不登校の方の多くが、発達障がいを抱えておられ、その方に合った生活環境、人間関係が整えられれば、しんどう生き方が緩和されるとのことでした。

では、援助者はどうすればいいのでしょうか。まず、その方の特性を理解し、「独特の文化」を受け入れることが大切だとおっしゃっておられました。

自閉症の方の障がいは、脳の機能の偏りだということです。例えば、ハンバーグ定食があるとすると、私たちは、味噌汁を飲んだり添え野菜と一緒に食べたり…、と順番に色々な物を食べたりします。が、自閉症の方は視覚情報として全体を見てはおられるのですが、脳での処理の段階で偏りがあるため、添え野菜の人参に集中してしまったり、そのみ食べて終わるということもあるそうです。

また、字義通りの解釈(「今日は暖かいですね」という挨拶に対して「気象庁発表では、24℃です。」というような受け答えになってしまう)、感覚過敏、フラッシュバック、同時処理といった独特の状態も偏りからおこるようです。

得意・不得意の差が大きいという特性をお持ちですが、できないことをできるようにすることでうまくいくのではなく、苦手なことを得意でカバーできるよう、得意なことを増やしていく援助が大切なのだそうです。他の人を見て学ぶというのが難しく、いろんな人と関わりながらこつこつ体験して、できることを増やしてもらうのが良いそうです。

～ガイドヘルプの中で気を付ける点を、いくつかご助言いただきました～

- *なるべく詳しく、その方の生活史、認識パターン、興味関心を把握しておく。
- *スケジュール表は見通しが見えるように活字で(場合によっては絵や写真をつけて)お伝えする。
- *パニックになられたときは、落ち着ける方法をいくつか考えておく(たとえば絵を描いてもらう、静かな所でじっとするなど、不安を別のことに置き換えてもらう)
- *意思疎通の手段としては、字や絵で表したパターンの中から、いくつか選択してもらったり、コミック会話(マンガで描いた吹き出し付き登場人物が2人いて、一方のふきだしには援助者が言いたいことを入れ、もう一方の吹き出しは、利用者の方に入れてもらう)を利用する。

お話を伺いながら、援助のむずかしさと学習の必要性を痛感しました。主人公である利用者の方が、楽しい・嬉しいと思えることを安心して出来るようお手伝いする、信頼していただける、一歩下がった形での援助に向けて努力したいと思います。

(川村 久美子)

有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東台101号

TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808

E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp

